



研究開発をグローバルで統合し 商品開発と商品展開をスピードアップ

NSSOLがシステム拡張と海外拠点への導入を支援

背景

日本と海外の研究開発拠点の連携を深めるため、日本・アジアで運用中の商品開発支援システムを欧米の拠点にも導入し、研究開発プロセスを統一する。商品開発力の向上とグローバルな商品展開の実現を目指す。



花王株式会社
品質保証部門
技術法務センター
技術法務・欧米担当部長
伊藤 司氏



花王株式会社
研究開発部門
研究運営・管理課
課長
小松崎 啓行氏



花王株式会社
研究開発部門
研究業務推進部
上席主任研究員
立澤 修氏



花王株式会社
情報システム部門
EBE部RDグループ
グループリーダー
田中 智仁氏

花王株式会社
本店：東京都中央区日本橋茅場町1-14-10
創業：1887年
資本金：854億円（2018年12月31日現在）
売上高：連結1兆5080億円（2018年12月期）
従業員数：連結3万3664名（2018年12月31日現在）

ソリューション

日米欧の研究開発プロセスからベストプラクティスを抽出し、それを基に従来システムを拡張して米国とドイツの拠点に導入。化学物質や各国規制の一元管理、欧米市場に対応した薬事申請の自動化などを実現した。

成果

研究開発プロセスを全世界で標準化したことにより拠点間のコラボレーションを高め、商品開発のスピードアップを果たした。また各国の規制対応を迅速化し、リージョンをまたぐ商品展開を容易にした。

研究開発をグローバルで一体化し、商品開発力の向上へ

ビューティーケア、ヘルスケア分野の日用品や産業向け化学製品を手掛ける花王は、中期経営計画で「グローバルで存在感のある会社『Kao』」を掲げ、2030年までに海外売上高比率40%を目指してグローバル化を進めている。

同社は日本と海外の研究開発拠点を一体的に運営するため、2014年から研究開発プロセスの標準化と商品開発支援システムの統合に関する検討を始めた。日本・アジアで運用しているシステムを拡張してドイツ、米国の研究開発拠点に展開し、欧米の研究開発拠点との一体化を進めるとともに、めまぐるしく変わる各国の化学物質への規制や化粧品法規にグループ全体で迅速に対応できるようにする。これにより商品開発力を高め、グローバルの収益力強化を目指す。

海外拠点を巻き込んだ複雑なプロジェクトを完遂

花王は、従来の商品開発支援システムと一緒に構築してきた日鉄ソリューションズ（以下、NSSOL）をITパートナーに選び、2016年1月から新しいグローバル商品化支援システムの構築プロジェクトを開始。日米欧それぞれの研究開発プロセスの良いところを集約して標準化し、新システムの要件を固めた。機能拡張のポイントは、化学物質データベースの統合、規制情報管理や薬事関係申請業務の欧米対応や自動化など。

複数の海外拠点にまたがる大規模で複雑なプロジェクトだったが、花王は計画通り2018年12月に新システムを稼働させた。NSSOLは花王とともに従来システムを12年以上も開発保守してきた知見を十分に生かし、様々な提案を交えて新システムの構築と欧米拠点への導入を支援した。

海外との協働が加速し、商品開発も格段にスピードアップ

統一した研究開発プロセスと支援システムのもと、花王は研究開発拠点間でグローバルなコラボレーションを促し、商品開発スピードを格段に高めている。また、世界各国の規制対応や薬事申請関連業務の効率化を実現し、欧米の商品をアジアで販売するような「地域を越えた商品販売」の展開スピードを加速させた。

原料データベースの統合効果に対する期待も大きい。原料をグローバルで一括調達できるようになるため、原料費の削減につながると見込む。

同社は今後、研究開発拠点間のグローバルなコラボレーションをより強化する計画だ。新システムの活用を促進し、それによって新たに出てくるシステム化要望に対して、NSSOLとともに対応していく考えである。

Key to Success

「海外にある当社の研究開発資産を最大限に活用し、グローバル市場で大きく成長していくこと」。品質保証部門技術法務センター技術法務・欧米担当部長の伊藤司氏は、新システムの目的をこう語る。「そのためには、全世界の研究開発プロセスを標準化することとシステムの統合が欠かせませんでした」（同）

というのも、「従来、欧米の拠点ではそれぞれ独自の商品開発支援システムを利用していたため、各国の研究者が協働する際の『目に見えない壁』になっていました。システム統合によってこの壁を崩し、データ・知見の共有やコラボレーションを促す必要がありました」と研究開発部門研究運営・管理部課長の小松崎啓行氏は話す。

原料のデータベースも、欧米の拠点では個別に管理されていた。

研究開発部門研究業務推進部上席主任研究員の立澤修氏は「同じ原料であっても、データの形式に違いが出ていました。品質の均一性を担保し、お客様に満足してもらえる商品を開発するためにも、商品開発支援システムの統合が急務でした」と当時の課題を振り返る。

今回、日米欧で異なる商品開発支援システムの中から日本のシステムを選んでベースシステムとした理由は、「システムの品質が最も高く、研究開発プロセスに対するカバー範囲も広がったから」と情報システム部門EBE部RDグループ グループリーダーの田中智仁氏は説明する。

この開発方針に基づき、花王はITパートナーにNSSOLを選んだ。2006年に商品開発システムを構築した時から12年以上にわたって一緒に開発・保

守してきた実績と、NSSOLの技術力や業務知識を評価してのことだ。

理想に近い形で要望を実現 ユーザー層を拡大してさらに体制強化

今回のシステム開発の難度はかなり高かった。

田中氏は「非常に複雑なシステムであり、改修箇所も多かったことから、想定外の不具合もありました。しかし、このシステムを12年以上にわたって一緒に構築してきたNSSOLが設計ドキュメントをしっかりと管理しており、綿密な影響範囲調査も実施していたことから、いずれも短時間で解決できました」とNSSOLの仕事ぶりを評価している。

苦勞のかいがあり、新システムは大きな果実を結びつつある。

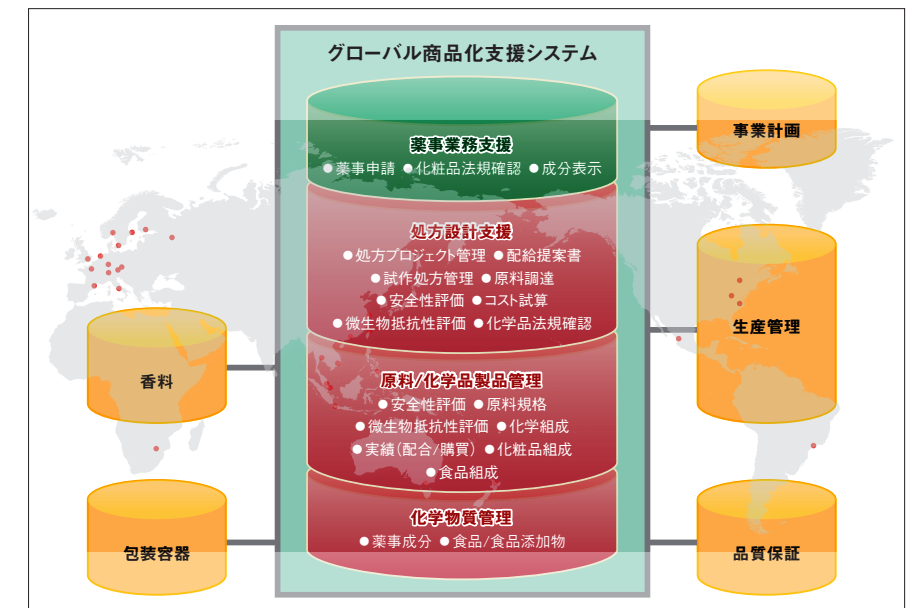
立澤氏は「研究者から実に様々な

要望が出ましたが、NSSOLはよく理解して、理想に近い形で実現してくれました。例えば商品の処方を含む編集画面などは操作性が格段にアップしたと、研究者たちの評価は上々です。海外の研究開発拠点と協働する時は、この同じ画面を見ながらウェブ会議などで相談できるようになり、商品開発のスピードが格段に上がりました」と話す。

商品をグローバルに展開する際の業務も効率化したと小松崎氏は話す。「一つの商品の処方を入力すると、各国の法令に則った成分表示や薬事申請などのドキュメントを自動作成する機能などにより、リージョンをまたいで商品を販売する場合の準備作業を非常に効率化できました」

今後について伊藤氏は、「現在は稼働したばかり。今後もグローバルに様々な環境の変化が予想されるため、NSSOLには引き続き支援してほしい」と期待する。

■花王が欧米・アジアに展開するグローバル商品化支援システムの概要



■コアテクノロジー

PLM（製品ライフサイクル管理）業界トップクラスの業務知識、グローバルシステム構築の知見

■システム概要

●アプリケーション：商品開発支援システム